

夏
2018年度

お元気ですか?
イリアンソ
です。



PAGE 02 理事長の散歩道

PAGE 03 特集「食べるをささえる」

PAGE 06 がんばれ！イリアンソ

PAGE 07 活動報告





理事長の散歩道 社会福祉法人 イリアンソス

理事長 磯部 光孝

あたりまえの生活

わが法人の生活寮(グループホームと同義)も開設して14年になります。利用されている障害のある人も14名から今では28名の方が暮らしています。28名といっても障害の重い方たちですので、一人ひとりがそれぞれの人生を自分らしく生きていけるよう、本人も含めて家族の方たちと話し合いながら支援しています。なかには、今まで支えてくれていた親御さんが亡くなられた方もいます。その方も兄弟の協力を得ており、毎月の通院支援にも一緒に行き、支援内容にも相談のつてもらっています。特に女性の場合、婦人科への通院は加齢に伴ってとても重要となってきました。また、脳性麻痺の利用者も42歳となりました。寮にはいったときはまだ28歳で、土日自宅に帰りゆっくりして通所や生活寮で集団生活をしていました。しかし、徐々に親の高齢化に伴い寮で生

活する日が増えて、今では365日生活寮で生活しています。

こうして、利用者の暮らしは一年一年積み重ねられ、どんなに障害が重くても、生まれてきた地域で暮らしていけるよう実績を作ってきました。

自由に生活の場を選択できるように

しかし、前回もスタッフ不足を訴えさせてもらいましたが、社会の変化はそれだけでなく制度も大きく変わってきました。2002(平成16)年の東京都の重度生活寮の制度から、国の制度としての支援費制度。支援費制度が破綻して障害者自立支援法となり、現在は障害者総合支援法となっています。

その中で東京都は、大規模な入所施設をつくるのではなく、都内に生活寮を積極的につくることで、障害のある人たちのニーズに対応しようとしたのです。具体的には国の制度である障害者総合支援法となつて、生活寮も日割り計算(利用者が利用していないときには給付費がでない)の対象でしたが、東京都の助成で月額を維持することができました。

これにより、障害の重い人でも自由に生活の選択ができるようになり、はじめに紹介したように家庭に戻りながら地域で暮らしていただくのです。

しかし、この度東京都はこれまでの方針を転換し、今年の10月から日払い制度に近い仕組みに変えようとしています。そうなるとう重い障害のある人の生活の選択肢が狭まってしまう。わたしたちは、家庭は障害のある人にとって、唯一ほっとする場所としていつでも家族に会える地域の重要な社会資源と考えています。自宅に帰ることも含めて地域にある生活寮の暮らしを進めてまいりました。

重い障害のある方たちの地域の生活とは何でしょうか。わたしたちはまだ答えを出せてはいません。答えを出すのは障害のある人たち一人ひとりだと思います。制度によってこうした暮らしの営みを根底から覆すことは、ぜひしたいとはいけないと思います。ぜひ、この事実を知っていただき東京都の動きを変えていきたいと思えます。

特集

食べるを支える



はじめに

イリアンソスでは、個々の状態に合わせた食事を考えていこうということ、3年ほど前から様々な取り組みをおこなっています。

きっかけとして、今まで当たり前に食していた利用者さんがむせ込んだり、残す事が多くなったりする事例が各事業所で増えてきたことが理由にあります。

そのような状況の中で、

「実は今までも、食べづらかったのでは？」

「そもそも食べるってどういうこと？」という疑問が職員からも出てきて、しっかりと学んでいこうということになりました。

まだまだ、学び途中ですが、その様子を紹介していきます。

その人を知る

食事の背景にあるもの

食事の支援をする時に大切な視点として、目の前の利用者さんを知るといふことです。生育歴や家庭の環境などを知ること、食事の好みや育ってきた背景を知ることができます。好き嫌いが多くて大変だったとか、食事中は集中して座ることができなかったなど、人それぞれ苦労や喜びの中で成長してきています。成人になると、そういった歴史が置いていかれがちになるので、まずは、生活史を知り、想像していく視点が大切なのだと思います。

食べることを支えるためには、まずその人を知るといふことを忘れてはいけないのだと感じます。

具体的な取り組み

専門職との連携

Episode1

かなえに通所するAさんは、幼少期はあまり食事が進まなかったそうです。成人してからは、自ら食事はしますが、気持ちが向かなくなってしまうと途中で立ち上がってしま

うことが多くありました。そこで、集中して食事をとるための支援が始まりました。

以前から、口に入れるとすぐに飲み込む傾向がありました。最近では、飲み込むまでのスピードがさらに早くなってきているように感じていました。丸飲みに近い状態では、誤嚥の危険があるので、作業療法士の先生と相談して、食事形態や食事方法について検討しました。

現在の飲み込む力を評価して、食形態はそのまま様子を見ることになりました。しかし、食べ物を口の中にかき込んでしまうことが多いので、食事方法を変えてみることにしました。

これまでは、底の浅いお皿を使用していました。食べやすい様子は見られますが、右手はスプーン、左手は親指を使って口にかきこんでしまいます。そこで、スプーンだけで食べられるように底が深い器に変え、すくいやすいようにしました。さらに、一口ずつ器に入れてゆつくりと食べられるような介助方法に変更しました。

最初は、今までの自分のリズムではないので、戸惑う様子が見られましたが、今では集中が途切れることなく、落ち着いて一口ずつ食事を進めるようになりました。今後も、Aさ

んの様子を丁寧に見ていきながら、形態・環境を考えていきます。育つてきた背景を知るとは、Aさんの今だけにとらわれずに判断ができるので、支援の幅も広がるのだと思います。

Episode2

なかまの家に通所するBさんは普通食を食バサミで一口大より少し小さいくらいに刻んだものを提供していましたが、時折強くむせ込む様子がありました。

そこで、職員間で食形態を見直し、ブレンダーで細かくしたり、トロミ剤を使用したりして、提供するようにしました。見直しをおこなってからは強くむせ込む事も少なくなり、落ち着いて食事をする事ができるようになりました。4月からは、栄養士と共に試行錯誤を続けています。取り組みの中で、食事に対する職員の意識も変わり、むせこみの要因や仮説を考えながら試行錯誤することが増えていきました。

利用者を中心にしながら、技術面ばかりに目を向けるのではなく、おいしく安全な食事ができるよう取り組みを続けていきたいと思います。

食べるを支える

その先に

各事業所では、専門職とも連携しながら、よりよい食事を目指して、日々試行錯誤しています。見た目や味だけでなく、その人の嚙む力や、飲み込む力に合わせた食形態にすることで、食材の旨味をより味わうことが出来ます。今後は、加齢や障害の進行、家庭の状況など日々変化していく中で、一人ひとりの現状をしっかり観察しながら把握していくことが重要になってきます。

また、実践の振り返りをしながら事業所間でも情報を共有していくことで専門性も向上していくと信じています。

食は、その人の生きてきた歴史。その人らしさそのものである。限りなくオンリーワンの食事を目指して、職員全員で「食べる」を支えていきたいと思います。



がんばれ！イリアンソ

わかさ学園 栄養士 行山真知子さん

わかさ学園の栄養士になって、早いもので今年が10年目の年となります。10年前の4月1日の入庁式、辞令を受け、恥ずかしながら初めてわかさ学園の存在を知りました。実は私は、わかさ学園で働きたい、障がい児の療育がしたい、という思いでわかさ学園に入ったわけではない、唯一の職員です。障がい児・者の知識が全くなかった私が、なぜ皆さんに「食べることを支える」ということで、摂食のお話をさせていたくださるの考えに至ったのか、今回はそのことを少しお話させていただきたいと思います。

乳幼児期は生活の要である食習慣を身に付ける大切な時期です。それは定型発達のお子さんでも障がいのあるお子さんでも同じです。わかさ学園の子どもたちが、おいし

く楽しく食事をしてほしい。しかし実際は、偏食があったり、食べる機能に問題があったりすることで、食べることが楽しくなかったり、食べることが難しかったりするお子さんが多いことに衝撃を受けました。おいしく味わうためにはどうしたらよいのか、楽しく食べるためにはどうしたらよいのか、この10年はずっとそのことを考えていた気がします。わかさ学園に入りたての頃は、自閉症で食べることも不安が強いお子さんに対し、関わりや雰囲気や安心できることで食事もし少し前進する、ということを実際に実践して体感していました。しかし、安心感だけでは越えられない、機能的な問題があることに気付きました。それは、生まれ持った本人にしかわからない暮らしにくさ、発達しにくさからくる二次障がいのものではないかと、勝手に思っています(例えば、過敏が強くて口唇が閉じない、足裏を着きたくないから姿勢が保てない、のような)。食べる機能に合った食形態はどのようなもので、食べる機能を引き出す介助方法はどのようにすればよいのか、学びに出ても乳幼児期に対す

るアプローチは肢体不自由児中心で、発達障がいのような一見困難さが分かり辛い子どもに対するアプローチ方法は、なかなか見つかりませんでした。この10年で私は調理することしかできていませんが、多職種の職員間で試行錯誤することで見えてきたことのもまとめが、「食べることを支える」でお話させていただいた内容だと思っています。

イリアンソさんの施設を見学させていただいて、成人期の方々もおいしく楽しく食事をするのが難しいことを実感しました。食べることは生きていく上で欠かすことのできない大切な営みです。乳幼児期で少しでも正しい食習慣が形成されていけば、成人期の困難さは軽減されるのではないかと、自分の至らなさを反省しています。「食べることを支える」の内容は、まだまだ発展途中です。固定化された習慣になっている成人期の食事を何とかしよう、と取り組んでいるイリアンソさんと共に、障がい児・者の食事を考えていきたい、と思っています。がんばれイリアンソさん！いや、共にがんばりましょうイリアンソさん！



通所の窓

4月から新しい仲間が加わりました。清瀬特別支援学校を卒業された「松尾豪士(まつおごうし)さん」です。人と関わるのが大好きです。ちゅーりっぷぶ班で毎日仕事をしています。元気に明るく過ごしています。どうぞ宜しくお願いします。

生活寮の窓

生活寮を囲む花壇。スタッフが入れをしていますが、その「合間」をつくるよりも早く、グングンと成長していく草花。手を付けずにいると、残念なことになり心無い人たちは、ポクイと「お土産(ゴミ)」を投げつけていくことも。そこへ「何かお手伝いできることあれば」と申し出ていただいたのは才野木(さいのき)さんでした。陽がサンサンとそそぐ日中、雑草取りから始まり、花壇のお手入れをしてもらっています。才野木さんは、このみでもご活躍されていて、イリアンソスを支えてくれる大事な方のお一人です。

放デイの窓

それぞれ進級した子どもたち、真新しい制服を着た初々しい姿。環境が変わり疲れがみられる日もありますが、みんな元気に過ごしています。おやつ作りではスコーンや、餃子の皮を使ったピザを作り美味しそうに食べていました。夏休みに向けて楽しい企画も検討しており子どもたちの笑顔を見るのが楽しみです。子どもたちにとって、心地良い場所であるよう職員、スタッフ心一つにして頑張ります。



Cafeとん

カフェとんが6月14日東久留米市役所1階にオープンしました。市の特産品である柳久保小麦で作った手打ちうどん、のぞみの家のケーキ、焙煎士によるこだわりコーヒーなど、地域の味を活かしたメニューをそろえています。今後は障害のある人の働く場となるよう準備を進めています。地域の人の憩いの場をめざしていますので、お気軽に足をお運び下さい。



ご寄付をいただきました (6月末まで)
 法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
 いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

「このみと山の子を支援する会」様 大矢智幸様 梅原雅子様
 藤田祐子様 ザ・プライス滝山様 柴田 真一郎様
 「イリアンソス後援会」様

ありがとうございます。

後援会行事
○夏祭り
7月28日 (土)
17:00~20:00
於: のぞみの家
○バザー
10月6日 (土) 予備日7日 (日)
10:00~14:00
於: 滝山団地センター広場

～職員のつぶやき～
 食に関して調べてみると、365日が何かしらの記念日で、企業や協会が制定していました。語呂合わせや、古文書から歴史を辿ってなど、ルーツも様々。記念日に合わせた献立を作ってみては…。

のぞみの家 吉田遊佑

- 社会福祉法人イリアンソス
- のぞみの家
 東久留米市下里2-7-18
 042-473-9027
 042-473-9036 (F)
 nozomi@iriansos.or.jp
 - 活動センターかなえ
 東久留米市南沢2-20-51
 042-452-6405
 042-452-6415 (F)
 kanae@iriansos.or.jp
 - なかまの家
 東久留米市中央町2-1-47
 042-472-7130
 042-444-3722 (F)
 nakama@iriansos.or.jp
 - 生活寮「うみ」「そら」
 東久留米市下里4-2-7
 042-476-3400 (F兼)
 sora@iriansos.or.jp
 - 生活寮「にじ」「かぜ」
 東久留米市下里5-10-10
 042-420-9943
 kaze@iriansos.or.jp
 - このみ
 東久留米市幸町3-8-23
 042-473-9667

《発行》
 特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
 ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室
 Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》
 社会福祉法人 イリアンソス
 〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
 Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員会》
 磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵
 中西亮太・疋田史江・斉藤加奈子
 ホームページからはカラーでご覧いただけます。

イリアンソス  **定価100円**

表紙の写真
 のぞみの家 (チャレンジ班) 旅行の一枚。
 食べるって楽しい～!!